



くも 雲はどうして落ちないでうかんでいるの

じょうしょうきりゅう 上昇気流でおしあげられている

くも ちい みず あつ そら みず そら お
雲は、小さな水のつぶが集まって、空にうかんでいるものです。水の水つぶなのに空から落ちてこないで、不思議な気がします。

くも ところ した うえ む くうき うご くうき なが じょうしょう
雲ができる所では、下から上に向かって空気が動いています。この空気の流れを、上昇気流といいます。この上昇気流のない所では、雲ができません。

くも お じょうしょうきりゅう あ そら
雲は落ちようとしているのですが、上昇気流によっておしあげられているので、空にうかんでいることができます。

くも みず ちい 雲をつくっている水の水つぶは、たいへん小さい

くも みず ちい おお
雲をつくっている水の水つぶは、たいへん小さく、0.02ミリメートルぐらいの、大きさです。ふつうの雨の水つぶの大きさが、2ミリメートルぐらいなので、いかに小さいかがわかります。

くも みず じょうしょうきりゅう びょうかん
雲をつくっている水の水つぶは、上昇気流でささえられていますが、1秒間に1～2センチメートルという、ゆっくりした速さで落ちていきます。

みず ちい かる お そら
この水の水つぶが、あまりにも小さくて軽いので、ゆっくりと落ちていて、空にうかんでいるように見えるのです。

くも なか ちい みず おお そら あめ
雲の中の小さな水の水つぶが、くっついて大きくなり、空にうかんでいられなくなると、雨となって地上に落ちてきます。（監修・村山 貢司）

